

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年11月12日

【四半期会計期間】 第118期第2四半期
(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)

【会社名】 ホーチキ株式会社

【英訳名】 HOCHIKI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役取締役社長 金 森 賢 治

【本店の所在の場所】 東京都品川区上大崎二丁目10番43号

【電話番号】 東京(3444)4111(大代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 齊 藤 順 一

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区上大崎二丁目10番43号

【電話番号】 東京(3444)4111(大代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役管理本部長 齊 藤 順 一

【縦覧に供する場所】 大阪支店
(大阪府東大阪市水走三丁目6番41号)

名古屋支店
(愛知県名古屋市中村区名駅一丁目1番4号
JRセントラルタワーズ32階)

横浜支店
(神奈川県横浜市神奈川区栄町5番地1
横浜クリエーションスクエア14階)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第117期 第2四半期 連結累計期間	第118期 第2四半期 連結累計期間	第117期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	25,909	27,426	61,763
経常利益又は経常損失() (百万円)	693	150	1,921
当期純利益又は四半期純損失() (百万円)	521	242	1,007
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	614	167	1,602
純資産額 (百万円)	18,032	20,029	20,248
総資産額 (百万円)	40,619	41,939	45,746
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額() (円)	17.95	8.35	34.65
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	44.3	47.6	44.1
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	215	25	2,043
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	831	406	1,856
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	63	672	213
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,206	3,175	4,203

回次	第117期 第2四半期 連結会計期間	第118期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	2.56	4.33

- (注) 1. 提出会社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第117期第2四半期連結累計期間、第118期第2四半期連結累計期間、及び第117期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、提出会社グループにおいて営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州諸国の財政問題や新興国の経済停滞等、海外景気の下振れが懸念されるものの、政府による経済政策や金融緩和への期待感から、円安・株高が進行し、輸出関連企業を中心に企業収益が改善するなど、景気は緩やかな回復傾向となりました。

防災・情報通信業界におきましては、企業収益の改善等を背景に建築工事費予定額は、増加傾向にあり、公共投資も堅調に推移するなど明るい兆しも見え始めております。

このような状況のもと、提出会社グループは、全社を挙げて営業活動を推進してまいりました結果、受注高は37,902百万円(前年同四半期比15.9%増)、売上高は27,426百万円(前年同四半期比5.9%増)とともに前年同四半期を上回る結果となりました。利益につきましては、売上高の増加や原価率の改善などにより、営業損失は180百万円(前年同四半期は営業損失647百万円)、経常損失は150百万円(前年同四半期は経常損失693百万円)、四半期純損失は242百万円(前年同四半期は四半期純損失521百万円)と損失額がいずれも減少いたしました。

セグメントごとにおける概況は次のとおりであります。

防災事業の火災報知設備と消火設備につきましては、引き続きメンテナンス物件を中心にリニューアル提案に注力し積極的な営業を推進してまいりました。また、近年、力を入れている海外事業におきましても業績は概ね順調に推移しており、ケンテックエレクトロニクスリミテッドを新たに子会社化したこと等もあり、受注高・売上高ともに伸長いたしました。

以上の結果、防災事業の受注高は30,612百万円(前年同四半期比17.1%増)、売上高は22,019百万円(前年同四半期比10.4%増)、セグメント利益(営業利益)は2,020百万円(前年同四半期はセグメント利益1,203百万円)となりました。

情報通信事業等の情報通信設備につきましては、監視カメラ設備やインターホン設備等のリニューアル市場と自治体向けの告知放送システムに注力してまいりましたが、地上デジタル放送への移行による共同受信設備の売上高の減少をカバーするには至りませんでした。防犯設備等につきましては、既存物件のリニューアル需要が高まりを見せるとともに中・小規模物件やテナント移動にともなうセキュリティ導入需要は依然として底堅く順調に推移いたしました。

以上の結果、情報通信事業等の受注高は7,289百万円(前年同四半期比11.2%増)、売上高は5,407百万円(前年同四半期比9.3%減)、セグメント損失(営業損失)は400百万円(前年同四半期はセグメント損失230百万円)となりました。

なお、提出会社グループの売上高は、通常の営業形態として、第4四半期連結会計期間に完成する工事の割合が大きいため、第4四半期連結会計期間の売上高と他の四半期連結会計期間の売上高との間に著しい相違があり、業績に季節的変動があります。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、前連結会計年度末の残高と比べ3,703百万円減少し、27,323百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が減少したこと等によるものであります。

受取手形及び売掛金の減少は回収等によるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末の固定資産の残高は、前連結会計年度末の残高と比べ103百万円減少し、14,616百万円となりました。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、前連結会計年度末の残高と比べ3,233百万円減少し、14,611百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金やその他に含まれる未払金が減少したこと等によるものであります。

支払手形及び買掛金や未払金の減少は支払によるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末の固定負債の残高は、前連結会計年度末の残高と比べ354百万円減少し、7,299百万円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末の純資産の残高は、前連結会計年度末の残高と比べ219百万円減少し、20,029百万円となりました。これは主に、利益剰余金が減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末残高4,203百万円及び営業活動による資金の増加25百万円を原資として、投資活動において406百万円、財務活動において672百万円をそれぞれ使用しております。

したがって、当第2四半期連結累計期間末の資金の残高は、前連結会計年度末の残高に比べ、1,027百万円減少し、3,175百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、25百万円(前年同四半期に使用した資金は215百万円)となりました。

これは主に、仕入債務の減少やたな卸し資産の増加等により資金が減少しましたが、売上債権の減少により資金が増加したものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、406百万円(前年同四半期に使用した資金は831百万円)となりました。

これは主に、有形固定資産やソフトウェアの取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、672百万円(前年同四半期に増加した資金は63百万円)となりました。

これは主に、借入金の返済等によるものであります。

(4) 事業上及び財政上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、提出会社グループの事業上及び財政上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、提出会社は、「会社の支配に関する基本方針」について、以下のとおり決定しております。

会社の支配に関する基本方針

上場会社である提出会社の株式は、譲渡自由が原則であり、株式市場を通じて多数の投資家の皆様より、自由で活発な取引をいただいております。よって、提出会社の財務及び事業の方針を支配する者の在り方についても、提出会社株式の自由な取引により決定されることを基本としております。したがって、大規模買付提案やこれに類似する行為があった場合においても、一概に否定するものではなく、最終的には株主の皆様の意思により判断されるべきであると考えております。

一方、提出会社は、提出会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、経営の基本理念、企業価値の様々な源泉、提出会社を支えるステークホルダーとの信頼関係を維持し、提出会社の企業価値ひいては株主共同の利益を中長期的に確保し、向上させる者でなければならないと考えております。したがって、企業価値ひいては株主共同の利益を毀損するおそれのある不適切な大規模買付提案やこれに類似する行為を行う者は、提出会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではないと考えております。

なお、大規模買付提案やこれに類似する行為があった場合には、直ちに情報の収集に努め、当該行為が提出会社に与える影響を分析し、基本方針に照らして不適切な者と判断した場合には、最も適切な措置をとってまいります。また、必要に応じ提出会社の考え、意見等を株主の皆様の判断材料となるよう開示いたします。

基本方針の実現に資する取組み

提出会社では、提出会社の企業価値及び株主共同の利益を向上させることにより、多数の投資家の皆様に長期的に継続して提出会社に投資していただくため、下記(イ)の基本方針のもとに下記(ロ)の施策を実施しております。

(イ) 提出会社の経営の基本方針

提出会社は、1918年の創業以来、「皆様の大切な人命や財産を火災からお守りする」という大きな使命のもと、製品やシステムの研究開発・製造から販売・施工・保守に至るまで一貫して火災防災に取り組んでまいりました。また今日では、防災で培った技術・ノウハウを核としてセキュリティシステムや情報通信分野へとその事業の裾野を広げております。今後につきましては、これらを融合し、さらに私たちの暮らしの基盤である一般住宅(家庭用防災)へも事業を拡大し、総合防災企業としてさらなる安心・安全・快適・利便の提供に邁進する所存であります。

このような背景のもと、提出会社は、「災害の防止を通じ人命と財産の保護に貢献する」ことを基軸とし、社会のニーズに適合した価値ある商品とサービスを提供するとともに、顧客、株主、取引先、その他地域社会の人々及び従業員に豊かな生活と生き甲斐のある場を提供する一方、地球環境の保全に配慮して活動することを経営の基本方針としております。

(ロ) 中長期的な企業価値向上のための取組み

提出会社は、長期ビジョン「VISION2017」のもと、経営理念である「人々に安全を」「社会に価値を」「企業をとりまく人々に幸福を」を真に実践できる企業集団となることを目指し、グローバルに発展していくために自らを変革し、変化の激しい市場環境を乗り越えてまいります。

引き続き、仕事の質、経営の質、製品の質、サービスの質、人材の質など経営に係る全ての「質」の向上に努め、グループ経営に重点を置き、グループ全体としての財務体質の強化に努め、収益性と資産効率の向上を目指し、利益の最大化に取り組んでまいります。また、リスク管理体制の強化に努め、企業の社会的責任を果たしてまいります。

提出会社は、これらの取組みとともに株主様をはじめ顧客、取引先、従業員等ステークホルダーとの信頼関係をより強固なものにし、中長期にわたる企業価値の安定的な向上を目指してまいります。

基本方針に照らして不適切な者によって提出会社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

上記のとおり中長期的な企業価値ひいては株主共同の利益の向上を目指し提出会社の経営にあたってまいります。そのためには、株主様をはじめ顧客、取引先、従業員等ステークホルダーとの間に十分な理解と協力関係を構築することが不可欠であります。提出会社は、平素より適正なる企業運営や適切な情報の開示に努め、提出会社のより良き理解者としての株主様の拡大に取り組んでまいります。

当該取組みが基本方針に沿い、提出会社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、提出会社の会社役員の地位の維持を目的とするものでないことについて

当該取組みは、大規模買付提案やこれに類似する行為がなされた際に、当該買付け等に応じるべきか否かの判断材料となるよう、平素より適正なる企業運営や適切な情報の開示に努めるものであります。その最終的な判断が、株主の皆様ご意思に委ねられていることから、提出会社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させるという目的に合致するものであり、提出会社の会社役員の地位の維持を目的とするものではありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は750百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,600,000
合計	57,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	29,172,000	29,172,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
合計	29,172,000	29,172,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年7月1日～ 平成25年9月30日		29,172,000		3,798		2,728

(6) 【大株主の状況】

平成25年9月30日現在			
氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
総合警備保障株式会社	東京都港区元赤坂一丁目6番6号	4,380	15.01
ロバートボッシュインベストメントネーデルランドビービー	東京都中央区月島四丁目16番13号 常任代理人 株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部	3,963	13.58
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号	2,359	8.09
三和ホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿二丁目1番1号	2,274	7.80
ホーチキ従業員持株会	東京都品川区上大崎二丁目10番43号	1,166	4.00
三井住友海上火災保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目9番地	993	3.40
トーア再保険株式会社	東京都千代田区神田駿河台三丁目6番地の5	850	2.92
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都港区浜松町二丁目11番3号 常任代理人日本マスタートラスト信託銀行株式会社	612	2.10
セコム株式会社	東京都渋谷区神宮前一丁目5番1号	420	1.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	372	1.28
合計		17,390	59.61

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年9月30日現在			
区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 113,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 28,925,000	28,925	
単元未満株式	普通株式 134,000		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	29,172,000		
総株主の議決権		28,925	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、提出会社所有の自己株式204株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ホーチキ株式会社	東京都品川区上大崎 二丁目10番43号	113,000		113,000	0.39
合計		113,000		113,000	0.39

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

提出会社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

提出会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,203	3,175
受取手形及び売掛金	17,864	13,760
製品	2,266	2,213
仕掛品	225	452
原材料	2,677	3,029
未成工事支出金	2,806	3,539
その他	1,064	1,226
貸倒引当金	80	73
流動資産合計	31,027	27,323
固定資産		
有形固定資産		
土地	4,053	4,064
その他(純額)	2,566	2,652
有形固定資産合計	6,619	6,717
無形固定資産		
のれん	890	824
その他	2,087	1,851
無形固定資産合計	2,978	2,675
投資その他の資産		
その他	5,286	5,389
貸倒引当金	165	165
投資その他の資産合計	5,121	5,223
固定資産合計	14,719	14,616
資産合計	45,746	41,939
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,765	7,473
短期借入金	523	479
未払法人税等	680	154
工事損失引当金	31	33
製品補償引当金	39	24
その他	7,803	6,447
流動負債合計	17,844	14,611
固定負債		
長期借入金	1,648	1,438
退職給付引当金	4,855	4,786
役員退職慰労引当金	9	9
その他	1,140	1,065
固定負債合計	7,653	7,299
負債合計	25,497	21,910

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,798	3,798
資本剰余金	2,728	2,728
利益剰余金	14,617	13,997
自己株式	56	57
株主資本合計	21,087	20,466
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	456	696
土地再評価差額金	704	704
為替換算調整勘定	657	483
その他の包括利益累計額合計	905	491
少数株主持分	66	54
純資産合計	20,248	20,029
負債純資産合計	45,746	41,939

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	25,909	27,426
売上原価	18,756	18,963
売上総利益	7,153	8,463
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	2,909	3,122
その他	4,891	5,521
販売費及び一般管理費合計	7,800	8,643
営業損失()	647	180
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	18	21
その他	84	67
営業外収益合計	104	91
営業外費用		
支払利息	17	18
売上割引	13	16
その他	118	26
営業外費用合計	150	62
経常損失()	693	150
特別利益		
有形固定資産売却益	-	2
特別利益合計	-	2
特別損失		
有形固定資産除却損	3	1
減損損失	-	8
特別損失合計	3	9
税金等調整前四半期純損失()	696	157
法人税、住民税及び事業税	50	101
法人税等調整額	228	12
法人税等合計	178	89
少数株主損益調整前四半期純損失()	518	246
少数株主利益又は少数株主損失()	3	3
四半期純損失()	521	242

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	518	246
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	240
為替換算調整勘定	75	173
その他の包括利益合計	96	414
四半期包括利益	614	167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	617	171
少数株主に係る四半期包括利益	3	3

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	696	157
減価償却費	497	518
減損損失	-	8
のれん償却額	0	65
貸倒引当金の増減額(は減少)	39	10
役員賞与引当金の増減額(は減少)	55	55
工事損失引当金の増減額(は減少)	47	1
製品補償引当金の増減額(は減少)	90	15
退職給付引当金の増減額(は減少)	150	68
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	20	24
支払利息	17	18
有形固定資産売却損益(は益)	-	2
有形固定資産除却損	3	1
売上債権の増減額(は増加)	8,286	4,237
たな卸資産の増減額(は増加)	593	1,170
その他の資産の増減額(は増加)	1,138	67
仕入債務の増減額(は減少)	3,654	1,384
未払消費税等の増減額(は減少)	134	267
未成工事受入金の増減額(は減少)	232	195
その他の負債の増減額(は減少)	1,474	807
その他	23	15
小計	452	641
法人税等の支払額	668	615
営業活動によるキャッシュ・フロー	215	25
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	194	331
有形固定資産の売却による収入	4	2
ソフトウェアの取得による支出	451	116
投資有価証券の取得による支出	3	3
貸付けによる支出	180	15
利息及び配当金の受取額	20	24
その他	26	34
投資活動によるキャッシュ・フロー	831	406
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	3,091	875
短期借入金の返済による支出	2,440	914
長期借入金の返済による支出	130	210
配当金の支払額	377	376
少数株主への配当金の支払額	2	7
利息の支払額	16	19
その他	61	18
財務活動によるキャッシュ・フロー	63	672
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	25
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	996	1,027
現金及び現金同等物の期首残高	4,202	4,203
現金及び現金同等物の四半期末残高	¹ 3,206	¹ 3,175

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 提出会社は、柔軟な資金調達手段を確保するため、取引銀行4行と貸出コミットメントライン契約を締結しております。これら契約に基づく当第2四半期連結会計期間末の借入未実行残高等は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
貸出コミットメントラインの総額	5,000百万円	5,000百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引額	5,000百万円	5,000百万円

- 2 手形流動化に伴う手形買戻し義務の上限額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
	982百万円	309百万円

(四半期連結損益計算書関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

提出会社グループの売上高は、通常の営業形態として、第4四半期連結会計期間に完成する工事の割合が大きいため、第4四半期連結会計期間の売上高と他の四半期連結会計期間の売上高との間に著しい相違があり、業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
現金及び預金	3,206百万円	3,175百万円
現金及び現金同等物	3,206百万円	3,175百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	377	13	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	377	13	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	防災事業 (百万円)	情報通信 事業等(百万円)	合計(百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円)
売上高	19,944	5,965	25,909		25,909
セグメント利益又は損失()	1,203	230	973	1,620	647

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 1,620百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	防災事業 (百万円)	情報通信 事業等(百万円)	合計(百万円)	調整額 (百万円)	四半期連結損益 計算書計上額 (百万円)
売上高	22,019	5,407	27,426		27,426
セグメント利益又は損失()	2,020	400	1,619	1,799	180

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額 1,799百万円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	17円95銭	8円35銭
四半期純損失金額()(百万円)	521	242
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純損失金額()(百万円)	521	242
普通株式の期中平均株式数(株)	29,065,664	29,059,846

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年11月12日

ホーチキ株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 新 居 伸 浩 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鳥 羽 正 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているホーチキ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ホーチキ株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。